



浜田和幸の 永田町便り

第30号

2014年9月発行 編集・発行 浜田和幸事務所 URL <http://www.hamadakazuyuki.com> BLOG <http://ameblo.jp/hamada-kazuyuki>
東京事務所 〒100-8962 東京都千代田区永田町 2-1-1 参議院議員会館 719号室 Tel 03-6550-0719 / Fax 03-6551-0719
鳥取事務所 〒682-0023 鳥取県倉吉市山根 583-3 サンヴェルツエ I 2F Tel 0858-24-5018 / Fax 0858-24-5038

臨時国会控え情勢報告会

日頃から支援して頂いている後援者の方々に感謝を込めた昼食会が18日、参議院議員会館の議員会議室で行われました。9月29日から11月末までの63日間で予定されている臨時国会を目前に控えた情勢報告会も兼ねており、時々刻々と変化する国内外の政治状況をテーマに活発な意見交換が行われました。



最初に浜田議員から現在の国内外の政治情勢についての報告が行われました。スコットランド独立を問う住民投票を翌日に控え、独立多数となった場合の影響について解説。派生的な動きとして、北朝鮮がいち早く国家承認をする意思表示をし、独自に北海油田の調査などを行っていることを明らかにしました。中国との関係が悪化する中で、新たな資源確保の必要性から過去のしがらみがない新国家との関係に期待する北朝鮮の思惑がにじみ出た動きと言えます。

こうした動きが拉致問題の再調査に当たっている北朝鮮の特別調査委員

- ① 国会議事堂を背景に記念撮影
- ② 意見交換会に参加した皆様と



会の報告にも影響を与える可能性があり、実際に9月中と見られてきた同委員会の報告は先延ばしになるのではないかとという声も出ています。また、北朝鮮はアメリカ人3人を拘束中で、最大15年の労働教化の判決を言い渡すなど、

対話が途絶えるオバマ政権に対しても圧力を加えており、北朝鮮の強硬姿勢を図る上で重要な指標となりそうです。

臨時国会で最大のテーマとなりそうな地方創生や消費税増税については関心も高く、話は盛り上がりました。鳥取からお越し頂いた後援者から「アベノミクスの恩恵が地方に全く届いていない。それどころかガソリン価格が高騰を続け、悲鳴を上げている。ニューヨーク先物原油価格と比較してもここ数年のガソリン価格が異常に右肩上がりなのは、インフレ誘導と原発再稼働が狙いなのではないか」という指摘もありました。

また、慰安婦問題・吉田調書を巡る朝日新聞誤報問題についての意見では「先日出張したイスラエルでは情報機関モサドの影響なのか、政府の号令一下で国民が一致協力する。対して日本ではバラバラの主張ばかりで足を引っ張り合う」といった厳しい指摘も。浜田議員は「第一義的には朝日新聞の問題。更には、積極的に独自調査をしようとしなかった当時の政府にも大きな問題があった。一時期は追随した報道をした他のメディアにも反省すべき点がある」と語りました。

昼食会の終了後、後援者の皆様は浜田議員とともに国会見学して臨時国会での議論により関心を向けながら、交流の輪を広げました。

各国大使と日々交流

国会閉会中も浜田議員は7、8月と国内外を忙しく駆け巡りました。各国大使との関係強化にも常に力を入れてます。大使との交流を記した直近のブログをいくつか紹介します。



ヨーロッパ各国大使の前途を祝す

(8月27日のブログ)

EUの顔として親まれてきたシュヴァイスグート駐日大使(=写真右)が日本を離れることになり、その送別会がヨーロッパ・ハウスで開かれました。この施設はそれぞれ同大使が肝いりで設計、建築にあたったもの。3年前のオープニングにはEUの外相にあたるレディー・アシュトンも駆けつけ、盛大な式典が開催されたことが昨日のこのように思い出されます。

昨夜の送別会には大勢のシュヴァイスグート大使夫妻の友人が集まり、同夫妻の更なる外交活動にエールを送ることに。というのも、次の赴任先は北京。2度目の中国とのことですが、政治、経済、安全保障、いずれをとっても課題、難題が山積みです。

お別れ会には中国の程永華大使夫妻も参加し、「こういう時期だからこそ、外交の最前線で仕事のやりがいがある。共に地域と世界の平和と安定のために努力しよう」と、熱いメッセージを交換。シュヴァイスグート大使といえば、「マリー・キュリー・アクション・プロジェクト」の推進にも尽力。何かといえば、EU諸国と日本、中国を結ぶため、

若手の物理、化学、工学系の研究者の相互交流の場や、インターン制度やキャリアアップのためのプログラムです。日本人研究者も恩恵に浴してきました。実は、同大使の離日に合わせるかのように、アイルランド、スウェーデン、チェコの大使たちも新たな任地に旅立つことに。彼らも皆、顔を揃えてくれたため、昨夜はあたかもヨーロッパ諸国大使の合同送別会のようにになりました。皆、日本での思い出を大切に、今後は新たな赴任先で日本大使を兼任する意気込みを語っておられるので、ありがたい限りです。

頼もしい大使たちの前途を祝すと共に、彼らとの末長い友情、信頼関係を約束した次第です。



ベトナム独立記念日の祝賀会にて

69回目ベトナム独立記念日の祝賀会に出席して

(9月2日のブログ)

9月2日は日本が米艦ミズーリ号上で降伏文書に調印した日です。一方、ベトナムにとっては独立を勝ち取った記念日。後者を祝う式典が昨夜、ベトナム大使館主催で開かれました。フン大使の力強い挨拶に続き、谷垣法務大臣が祝辞を。元数学オリンピックのベトナム代表のフン大使はよく練り上げたメッセージを披露されました。

日本との歴史的、文化的な深い関係に触れつつ、経済、安全保障の面での一層の関係強化を訴えたわけです。と同時に、中国との関係改善に向けても前向きな姿勢を明らかに。

おそらく先月、北京にて習近平国家主席とベトナム共産党のホン・アン特使との間で「互いに引越してできない関係であり、友好信頼の絆を深めよう」と、合意が得られたことも影響しているのでしょう。

この北京会談では、両国間に緊張をもたらした南シナ海における中国による一方的な海底油田開発計画についても、「共同の資源開発」を目指すことで手打ちが行われた模様です。予断は許せませんが、ベトナムも中国も巧みな交渉を水面下で続けており、双方ともウィン・ウインの決着を自らの主導で図ろうと内外にアピールしていることは間違いありません。その意味でも、フン大使の慎重な言い回しながら、自信に満ちたスピーチは聞きごたえがありました。

昨年まではベトナム大使館で開かれていた独立記念日の祝賀会ですが、今年は都内のホテルの大宴会場が舞台。溢れんばかりの来場者数や外国大使らの顔ぶれから判断しても、ベトナムの国家としての強い意志が感じられたものです。